

2026年度

大学院文学研究科博士課程前期2年の課程入学試験

(冬期・一般選抜) 問題

専門科目 日本文学 専攻分野

試験開始の合図があるまで、この問題冊子を開いてはいけない。

2026年度

成	
績	

大学院文学研究科博士課程前期2年の課程入学試験

(冬期・一般選抜) 問題

専攻分野) 日本文学 (専攻分野)

- (注意事項) ① 第一問の解答は、答案紙二十行程度を標準とする。
- ② 第二問 1 から 5 までの解答は、それぞれ答案紙八行程度を標準とする。
- ③ 第五問の解答は、答案紙十七行程度を標準とする。
- ④ 第一問から第五問まで、すべて縦書きで解答すること。

一、それぞれの文学作品の固有の特質を考察することの意義とは何か、自身の見解を述べなさい。

その上で、大学院で行う予定の自身の研究のテーマ、目的、方法を具体的に説明しなさい。

一、次の事項について説明しなさい。

1 上代から平安時代初期の漢詩集

2 『うつほ物語』の内容と特質

3 後深草院二条『とはずがたり』の文学史上の意義

4 近松門左衛門

5 日本浪漫派

三、次の和歌を翻字し、口語訳しなさい。

あゝるるもかきかへるおゝあはれ
しゝるるのこゝろくゝる

四、次の文章は、『更級日記』の一節である。傍線部①②を、それぞれ意味が通るように、言葉を補いつつ丁寧な口語訳しなさい。

上達部、殿上人などに対面する人は、定まりたるやうなれば、うひうひしき里人は、ありなしをだに知らるべきにもあらぬに、十月ついたちごろの、いと暗き夜、不断経に、声よき人々読むほどなりとて、そなた近き戸口に二人ばかりたち出でて聞きつつ、物語してより臥してあるに、参りたる人のあるを、「逃げ入りて、局なる人々を呼びあげなどせむも見苦し。さはれ、ただ折からこそ。かくてただ」と言ふいま一人のあれば、かたはらにて聞きゐたるに、①おとなしく静やかなるけはひにて、ものなど言ふ、くちをしからざなり。「いま一人は」など問ひて、世のつねのうちつけの懸想びてなども言ひなさず、世の中のあはれなることどもなど、こまやかに言ひ出でて、さすがにきびしう引き入りがたいふしありて、われも人も答へなどするを、「まだ知らぬ人のありける」などめづらしがりて、とみに立つべくもあらぬほど、星の光だに見えず暗きに、うちしぐれつつ、木の葉にかかる音のかしきを、②なかなか艶にかしき夜かな。月の隈なく明からむも、はしたなく、まばゆかりぬべかりけり」。

①

②

五、 次の文章は、金井美恵子「兎」(『すばる』、一九七二年六月)の冒頭部である。この小説を読み解く上で重要なポイントとなり得ると考えられる事項(モチーフ)と表現・語りの特性について、本文の記述を抜き出しながら説明せよ。なお、複数の事項(モチーフ)や表現等を取り上げてもよい。

著作権の都合上、この部分をご覧いただけません。

以上